

会長就任に当たって(ご挨拶)

北村修一

この度、図らずも柑芦会の会長にご選出いただきましたからには、立候補時の「所信表明書」でお約束したことをこの2年間をかけてできるだけ実行してまいり所存です。

しかしながらまだまだ経験不足ですので、青柳前会長にはこれまでのご経験と実績を活かして、今後もお力添えをいただきたいと思います。

またご存じの方も多いと思いますが、和歌山大学経済学部の構内には柑芦会の活動拠点である「ゲートウェイサロン」という部屋があります。これは全国の大学でも他に例を見ないものですが、実はこれも青柳様の6年間のご尽力のご功績の一つであり、同時に大学から柑芦会への期待の表明でもあります。今後はこの貴重な資源をさらに活用してまいります。

さて、世の中が大きくまた急激なスピードで変化する現在、和歌山大学、経済学部、柑芦会にも、それに合わせた対応が求められています。「進化論」のダーウインの有名なことばの中に「生き残るのは強いものではない。変化に対応できたものが生き残るのである」というものがあります。

私は、「不易と流行」の考えに則り、残すべきは残し変えるべきは変える、という考えに基づいて、当面は下記のことを重点課題として取り組みたいと考えています。

1. 柑芦会における意思決定は、できるだけオープンな形で進めていく。

- ・まず最初に、「何から順に取り組むのか」の優先順位についても、「会長副会長会」等を通じて検討いたします。
- ・そのため、「集会型」の会議だけではなくICTを活用した意思決定方法にも取り組みます。

2. 各種課題に対しては、広く会員の知恵と力を結集して組織的に解決していく。

- ・諸課題の解決に当たっては、いくつかの「委員会」や「プロジェクト」的なグループを組織して、小規模支部や地方支部、現役ビジネスマン世代の人など、「より多くの方々」に「少しずつの協力」をしていただけるようにします。
- ・これを通じて、会員の参画意識、当事者意識を醸成すると共に、その活動の中から次世代の役員候補者を発掘してまいります。

3. 広報活動は、そのタイミングや効率、効果も意識して取り組んでいく。

- ・広報活動の「基準」は、母校や経済学部、柑芦会のためになるかどうか、卒業生や現役学生や教職員の方々にとって誇りや自信につながるものかどうか、に置きます。
- ・各種の広報媒体と活動の交通整理により、より効率的で効果的な広報活動を展開します。

すべては母校のため、後輩たちのため、柑芦会のためです。どうか皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



柑芦会の活動やイベントなどの情報については、フェイスブックの「柑芦会オフィシャルページ」(上記のQRコードを読み込んで、入会リクエストを送る)でもご覧ください。

以上